

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」の実施状況
(京都市立病院)

評価結果案	該当項目数	
	22年度	【参考】21年度
○=実施又は達成	33	33
△=一部実施又は一部達成	4	4
×=未実施又は未達成	5	5
計	42	42

うち6項目については、関連する年次ごとの「数値目標」(計21項目。達成状況は資料3-1参照)を掲載

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
2	事業運営の目標				
	(1)	市民の皆様が親しまれ、愛され、信頼される市立病院を目指して			
	ア	医療機能の維持・向上			
1		計画的に医療機器の整備・充実を図り、医療機能の維持・向上に努めます。	平成22年度に取得した主な医療機器 デジタルX線透視診断TV装置（更新）30百万円 外科画像超音波診断システム（更新）14百万円 平成22年度の医療機器購入額 177百万円（過去5年間の平均369百万円） （㊦432百万円）	○	○
2		「地域医療支援病院」の早期承認を目指して、紹介率・逆紹介率の向上や地域の医療機関との連携に取り組めます。	紹介率・逆紹介率の向上 ・紹介率 年度目標 43.3%→実績 44.0% (㊦42.2%) ・逆紹介率 年度目標 64.0%→実績 72.5% (㊦68.0%) 地域の医療機関との連携 ・登録医数 221人 (㊦66人) ・入院病床の共同利用実績 8件 (㊦5件) ・高額医療機器共同利用 323件 (㊦283件) ・地域医療従事者に対する研修会・カンファレンスの実施 30回延べ925人（うち院外389人）参加 (㊦33回延べ820人（うち院外270人）参加) ・医療機関への訪問活動の実施（平成23年1月～） 34件 (参考) 地域医療支援病院の承認（市内5番目，府内8番目） ・平成21年9月1日	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
3	イ 医療技術の向上	医療技術の向上のため、医師等の学会や研修会への参加、院内研修会の実施を積極的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度 医師の学会出張に係る1人平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> 常勤医師 3.9回/人 (317回/81人) 専攻医 2.3回/人 (88回/38人) 臨床研修医 0.6回/人 (15回/27人) 合計 2.9回/人 (420回/146人) (20473回 21518回) 平成22年度 コメディカルの学会等の平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士, 作業療法士 0.4回/人 (3回/7人) 放射線技師 0.7回/人 (15回/23人) 栄養士 0.8回/人 (4回/5人) 検査技師 1.3回/人 (39回/31人) 薬剤師 3.0回/人 (64回/21人) 合計 1.4回/人 (125回/87人) (2078回 21117回) 平成22年度 医療安全に係る安全管理のための院内研修 25回実施 (2129回) 	○	○
		職員の専門性を高めるため、専門医、指導医、認定看護師、癌化学療法専門薬剤師、医学物理士(放射線治療)、細胞検査士等、各種の資格取得や認定を受けられるよう取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度 市立病院が位置付けられている認定研修施設等 57件 (2149件) 平成22年度 認定医等の資格取得支援(医師の学会出張延べ人数) 合計420人 (21518人) 平成22年度 有資格者在籍数 <ul style="list-style-type: none"> 指導医 36人 (2134人) 専門医 38人 (2145人) 認定看護師 6人 (216人) がん指導薬剤師 1人 (210人) 医学物理士 1人 (211人) 細胞検査士 4人 (214人) 	○	○
4					

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
5	ウ	市民ニーズへの対応			
		これまでから、「女性総合外来」、「SARS対応」、「男性専門外来」、「セカンドオピニオン外来」、「緩和ケア外来」等、市民ニーズへの的確な対応を図ってきており、今後とも、関係部局・関係機関との連携を図りながら、常に迅速かつ適切な課題への対応を行います。	各専門外来の実績 (22年度) (21年度) 女性総合外来 78件 158件 男性専門外来 38件 30件 セカンドオピニオン外来 18件 14件 禁煙外来 71件 51件	○	○
6	エ	患者サービスの向上			
		ユニバーサルデザインの考え方に基づく環境づくりや、職員の接遇・対応の一層の向上に努める。	○ユニバーサルデザインの考え方に基づき療養環境の向上等を図るため、次の事項等についてSPC（特別目的会社）と協議を行い、新館新築及び本館改修等の実施設計に着手した。 ・受付やスタッフステーションのカウンターの高さ、衛生機器の形状 ・JIS（日本工業規格）のユニバーサルデザインに適合した新館及び本館のサイン ○外部講師を招いて接遇研修を実施した。（平成22年12月2日実施）	○	○

大項目	中項目	具 体 的 取 組 事 項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																										
7		<p>入院患者への定期的なアンケートの実施等により、患者サービスの向上の取組を評価し、必要な改善策を講じることで、患者満足度を高めます。</p>	<p><患者満足度アンケート調査></p> <p>入院 平均点 (5点満点)</p> <table border="1" data-bbox="1182 295 1608 494"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院生活</td> <td>3.93</td> <td>3.92</td> </tr> <tr> <td>食 事</td> <td>3.79</td> <td>3.84</td> </tr> <tr> <td>説 明</td> <td>4.18</td> <td>4.30</td> </tr> <tr> <td>職員の対応</td> <td>4.37</td> <td>4.38</td> </tr> <tr> <td>(うち身だしなみ)</td> <td>4.40</td> <td>4.46</td> </tr> <tr> <td>診療・看護内容</td> <td>4.57</td> <td>4.57</td> </tr> </tbody> </table> <p>外来</p> <table border="1" data-bbox="1182 558 1731 758"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待ち時間「長い」</td> <td>39%</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>診療への評価「満足」「やや満足」</td> <td>76%</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>職員の対応「満足」「やや満足」</td> <td>78%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>職員の対応満足度(5点満点)</td> <td>4.4点</td> <td>4.4点</td> </tr> <tr> <td>院内の清潔感「清潔」「大体清潔」</td> <td>81%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>家族に勧められるか「勧める」</td> <td>74%</td> <td>72%</td> </tr> </tbody> </table> <p><診療待ち時間アンケート> 平均待ち時間 (加重平均) 平成22年10月 58.3分 (平成21年10月 62.4分)</p> <p><御意見箱に寄せられた御意見に基づく主な改善事例></p> <ol style="list-style-type: none"> ①院内の売店で京都市交通局のトラフィカカードの販売を開始した。 ②クレジットカードでの支払いを導入した。 ③憩いの広場を整備した。 ④病院食について2週間サイクルから3週間サイクルメニューに変更した。 ⑤職員用駐輪場を新たに整備し、来院者が来院者用駐輪場により多く駐輪できるようにした。 ⑥北館に入院受付カウンターを設置した。 ⑦本館1階出入口付近に時計を設置した。 ⑧介護タクシーの駐車スペースをロータリー内に移動し、障害者用駐車場を1台分増やした。 		21年度	22年度	入院生活	3.93	3.92	食 事	3.79	3.84	説 明	4.18	4.30	職員の対応	4.37	4.38	(うち身だしなみ)	4.40	4.46	診療・看護内容	4.57	4.57		21年度	22年度	待ち時間「長い」	39%	25%	診療への評価「満足」「やや満足」	76%	76%	職員の対応「満足」「やや満足」	78%	85%	職員の対応満足度(5点満点)	4.4点	4.4点	院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	81%	80%	家族に勧められるか「勧める」	74%	72%	○	<p>△ 〔入院○〕 〔外来×〕</p>
	21年度	22年度																																													
入院生活	3.93	3.92																																													
食 事	3.79	3.84																																													
説 明	4.18	4.30																																													
職員の対応	4.37	4.38																																													
(うち身だしなみ)	4.40	4.46																																													
診療・看護内容	4.57	4.57																																													
	21年度	22年度																																													
待ち時間「長い」	39%	25%																																													
診療への評価「満足」「やや満足」	76%	76%																																													
職員の対応「満足」「やや満足」	78%	85%																																													
職員の対応満足度(5点満点)	4.4点	4.4点																																													
院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	81%	80%																																													
家族に勧められるか「勧める」	74%	72%																																													

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
8	オ	職員のモチベーションの向上			
		職員にとって働き甲斐があり、満足度の高い職場づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見箱に寄せられた御意見のうち職員等への感謝の意見 35件 (㊦38件) ・医師における地域手当の段階的引き上げ (一般職員10%) 平成19年度 12%, 平成20年度 13% 平成21年度 14%, 平成22年度 15% ・医師, 看護師等の学会出張 ・医療安全管理研修会等の研修会を開催 (内容については概ね好評である。) 	○	○
9	カ	病院機能評価の受審 (更新)			
		平成21年度における「病院機能評価」の認定の更新を目指し, 継続的に改善を行います。	<p>平成21年度に実施済み</p> <p>(参考) 平成22年2月9日に認定更新 全246項目中, 5段階評価で4以上の評価を得た項目の割合87%</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(2) 安全で安心できる市民生活を支える医療提供					
10	ア	医療安全推進の取組			
		<p>これまでから、医療事故に係る公表基準の策定や複数の専従・専任安全マネジャーの配置、医療安全管理委員会活動の強化等、医療安全管理体制の再点検と改善に取り組んできており、今後とも、引き続き職員一丸となって、市民の皆様の期待に応えられる安全な医療の提供に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全全国フォーラムにおいて、医療安全全国共同行動優秀活動賞を全国で唯一受賞（平成22年11月） ・医療安全管理委員会の開催（毎月3回） インシデント・アクシデントの原因分析や改善策を議論し、各部署にフィードバック ・医療安全管理研修会 25回実施（㊤29回） ・モーニング・カンファレンス、ランチョンセミナー実施 ・患者誤認対策キャンペーンの実施 ・医療安全掲示板に「共有すべき医療事故情報」毎月掲示 ・インシデント報告を周知徹底 <p>【インシデントの件数】 21年度 873件→22年度 1,149件</p> <p>【アクシデントの件数】 21年度 32件→22年度 108件</p>	○	○
11	イ	院内感染防止対策			
		<p>感染防止委員会の着実な実施や、MRSA対策をはじめとする院内感染防止対策マニュアルの徹底、研修会の実施等の取組を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度感染防止委員会開催実績 計12回（㊤12回） ・感染症内科部長をリーダーとする「感染制御チーム」（ICT）の活動を通じて、感染状況の把握に努めるとともに、病院各部門への指導や啓発を強化している。 <p><平成22年度の活動> 院内ラウンド（週2回） 院内ミーティング（月2回） 院内研修会の開催（ICT主催6回） ICTニュース発行（12回/年） など</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(3) 自治体病院としての政策医療の機能強化					
12	ア	新型コロナウイルス対策			
		<p>新型コロナウイルスの流行時には、他の医療機関との協力のもとに市立病院全体で対応することを既に表明しており、市内で唯一の感染症指定医療機関としての責務を果たします。</p>	<p>○平成21年度に実施済み ○平成22年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス 診察数 1,424人 (㊟5,366人) ・新型コロナウイルス 入院者数 21人 (㊟ 82人) ・インフルエンザワクチン予防接種実施者数 1,664人 (㊟新型コロナウイルスワクチン予防接種実施者数2,726人) <p>(参考) 平成21年度に新型コロナウイルス感染が拡大した際には、国内初の感染患者が発生した日に、直ちに24時間体制の「発熱外来」を設置し、京都市域における中心的役割を果たした。</p>	○	○
13	イ	大規模災害・事故対策			
		<p>大規模災害・事故の発生に備え、多数の患者を収容できるホールや災害時緊急医療機器の整備を行うとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）を組織し、各種の訓練に積極的に参加するなど、災害拠点病院としての役割を果たします。</p>	<p>○災害拠点病院にふさわしい施設整備を行うため、引き続き準備工事を実施するとともに、次の事項を盛り込んだ新館新築及び本館改修等の実施設計に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポートを設置 ・新館を免震構造化 ・非常用発電機を増設 ・燃料槽を拡張、備蓄水槽を設置 ・備蓄の倉庫を整備 ・新館外来待合室等に、一時的に多数の患者を収容し、処置を行える設備を設置 <p>○各種訓練への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度近畿地方DMAT訓練（平成22年7月28日～29日、5名参加） ・平成22年度京都市総合防災訓練（平成22年9月4日、6名参加） ・平成22年度京都府・京都市国民保護共同訓練（平成22年10月12日、6名参加） <p>○東日本大震災被災地（岩手県花巻市）へDMATチームを派遣（平成23年3月12日～14日、3名派遣）</p> <p>○呼気二酸化炭素検知器の新規購入</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																															
14	ウ 救急医療への対応	<p>関係機関との連携・役割分担を踏まえ、より多くの救急搬送を受け入れるとともに、引き続き、救急患者が入院を必要とする場合にも円滑に対応できるよう取り組むなど、自治体病院としての責務を果たします。</p>	<p>・救急車受入件数は、平成21年度に引き続き過去最高を記録し、プランの目標を達成した。 ・救急患者数は、救急車受入件数や、救急入院患者数の増（平成11年度以降最高）を達成するなど、重症の救急患者を積極的に受け入れたが、目標には届かなかった。</p>	△ 救急患者数× 救急車受入件数 ○	△ 救急患者数○ 救急車受入件数 ×																															
		<数値目標>																																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th rowspan="2">(参考) 20年度実績</th> <th colspan="2">(参考)21年度</th> <th colspan="3">22年度</th> <th rowspan="2">差引 (22実績-22目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>達成状況</th> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>19,123人</td> <td>23,234人</td> <td>○</td> <td>23,134人</td> <td>20,377人</td> <td>×</td> <td>△ 2,757人</td> <td>21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受け入れを行ったが、目標には届かなかった。</td> </tr> <tr> <td>救急車受入件数</td> <td>2,786件</td> <td>3,095件</td> <td>▲</td> <td>3,362件</td> <td>3,843件</td> <td>◎</td> <td>481件</td> <td>原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	救急患者数	19,123人	23,234人	○	23,134人	20,377人	×	△ 2,757人	21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受け入れを行ったが、目標には届かなかった。	救急車受入件数	2,786件	3,095件	▲	3,362件	3,843件	◎	481件	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。		
		目標項目			(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度				差引 (22実績-22目標)	説明																							
実績	達成状況		数値目標	実績		達成状況																														
救急患者数	19,123人	23,234人	○	23,134人	20,377人	×	△ 2,757人	21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受け入れを行ったが、目標には届かなかった。																												
救急車受入件数	2,786件	3,095件	▲	3,362件	3,843件	◎	481件	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。																												
15	エ 地域周産期母子医療センターとしての対応	<p>地域周産期母子医療センターとして、関係機関との役割分担を踏まえ、合併症妊娠分娩やハイリスク妊娠に対しても、院内の小児科や関係各科の医師との緊密な連携のもと、母子とも安全な分娩管理を行い、他の医療機関からの母体搬送も受け入れることにより、自治体病院としての責務を果たします。</p>	<p><平成22年度の主なハイリスク分娩> 帝王切開79件（うち緊急帝王切開50件） （㊦82件，うち緊急帝王切開51件） 切迫早産36件（㊦48件） <平成22年度の母体搬送の救急受入実績> 受入45件（㊦55件）</p>	○	○																															

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績			22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																
(4)	京都市の中核病院としての機能																																						
16	ア	地域医療連携の推進																																					
		市立病院の高額医療機器や入院病床の共同利用、地域医療フォーラム等の取組を積極的に展開してきており、今後、更に病診連携・病病連携に取り組み、紹介率・逆紹介率の向上を図ります。	高額医療機器共同利用 平成22年度 323件 (㊦283件) 入院病床の共同利用 平成22年度 8件 (㊦5件) 地域医療フォーラム 2回開催、延べ277人(うち院外173人)参加 ・平成22年9月18日 147人(うち院外 91人) ・平成23年2月12日 130人(うち院外 82人) (㊦2回開催、延べ204人(うち院外87人)参加) 地域医療従事者に対する研修会・カンファレンスの実施 (各診療科等が主催) 30回実施、延べ925人(うち院外389人)参加 (㊦33回実施、延べ820人(うち院外270人)参加) 医療機関への訪問活動の実施(平成23年1月～)34件	○	○																																		
17		地域医療支援病院の早期承認を目指します。	平成21年度に実施済み (参考) 地域医療支援病院の承認 ・平成21年9月1日			○	○																																
		<数値目標>																																					
			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>(参考)</th> <th colspan="2">(参考)21年度</th> <th colspan="3">22年度</th> <th rowspan="2">差引 (22実績-22目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>20年度実績</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>41.3%</td> <td>42.2%</td> <td>○</td> <td>43.3%</td> <td>44.0%</td> <td>○</td> <td>+0.7ポイント</td> <td rowspan="2">地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒して達成</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>64.0%</td> <td>68.0%</td> <td>◎</td> <td>64.0%</td> <td>72.5%</td> <td>◎</td> <td>+8.5ポイント</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	紹介率	41.3%	42.2%	○	43.3%	44.0%	○	+0.7ポイント	地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒して達成	逆紹介率	64.0%	68.0%	◎	64.0%	72.5%	◎	+8.5ポイント				
目標項目	(参考)	(参考)21年度			22年度			差引 (22実績-22目標)	説明																														
	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況																																	
紹介率	41.3%	42.2%	○	43.3%	44.0%	○	+0.7ポイント	地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒して達成																															
逆紹介率	64.0%	68.0%	◎	64.0%	72.5%	◎	+8.5ポイント																																

18

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績			22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																	
	イ	<p>地域がん診療連携拠点病院としての機能</p> <p>平成20年3月の「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件の見直しに伴い、新たな指定要件による指定更新に対応できるよう、専門知識を有した医師・看護師等の計画的育成や地域の医療機関への支援に積極的に取り組みます。</p>	<p>・指定更新（平成22年4月～平成26年3月）</p> <p>【診療・治療】</p> <p>・化学療法 入院2,181件 外来2,566件 (㊤入院2,068件 外来2,264件)</p> <p>・院内がん登録 1,129症例（平成22年） 地域がん登録 1,045症例（平成22年）</p> <p>・「がん治療連携計画策定料」の施設基準を取得（平成23年1月～）</p> <p>・IMRT及びVMATによる放射線治療を開始（平成23年2月～）</p> <p>【研修・人材育成】</p> <p>・地域医療フォーラム 年2回開催のうち1回は、がん診療について実施 平成23年2月 130名（うち院外82名）参加 （平成22年2月 89名（うち院外33名）参加）</p> <p>・緩和ケア研修会 平成22年6月開催 39名（うち院外17名）参加 （平成21年4月開催 38名（うち院外25名）参加）</p> <p>・緩和ケアエキスパート研修会 6回開催（平成22年10月～平成23年3月） 22名（うち院外3名）修了 [前回7回開催（平成21年12月～平成22年6月）] 42名（うち院外6名）修了</p> <p>・がん支援相談員基礎研修受講 基礎研修（1～3）8名修了（㊤7名）</p> <p>・がん放射線療法認定看護師資格を取得（平成22年7月，1名）</p> <p>・がん指導薬剤師資格を取得（平成22年9月，1名）</p> <p>【患者支援等】</p> <p>・がん相談支援 2,219件（㊤1,759件）</p> <p>・「みぶなの会」毎月2回開催 （平成22年10月から月1回開催を月2回開催に変更）</p> <p>・乳がん患者会「微助人（びすけっと）」月1回開催（平成22年11月～）</p>			○	○																																	
		<数値目標>																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>(参考)</th> <th colspan="2">(参考)21年度</th> <th colspan="3">22年度</th> <th rowspan="2">差引 (22実績-22目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>20年度実績</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規がん患者数</td> <td>893人</td> <td>953人</td> <td>○</td> <td>998人</td> <td>1,142人</td> <td>◎</td> <td>+144人</td> <td>23年度目標(1,068人)を前倒しで達成</td> </tr> <tr> <td>がん治療延べ件数</td> <td>2,413件</td> <td>2,621件</td> <td>▲</td> <td>2,840件</td> <td>3,047件</td> <td>◎</td> <td>+207件</td> <td>23年度目標(3,039件)を前倒しで達成</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	新規がん患者数	893人	953人	○	998人	1,142人	◎	+144人	23年度目標(1,068人)を前倒しで達成	がん治療延べ件数	2,413件	2,621件	▲	2,840件	3,047件	◎	+207件	23年度目標(3,039件)を前倒しで達成					
目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明																																
	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況																																		
新規がん患者数	893人	953人	○	998人	1,142人	◎	+144人	23年度目標(1,068人)を前倒しで達成																																
がん治療延べ件数	2,413件	2,621件	▲	2,840件	3,047件	◎	+207件	23年度目標(3,039件)を前倒しで達成																																

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(5) 病院運営の改善					
19	ア	PFI手法による整備運営事業の実施			
		耐震性等に課題がある北館の改築及び本館の改修と、施設の管理、医療周辺業務等の運営業務をPFI手法により実施することとして、現在、入札に向けた手続を進めているところであり、今後とも、この手法によりサービスの質の維持・向上に努めながら、施設整備や管理運営コストを最小化します。	<p>○薬品・診療材料等の調達業務については、平成22年4月から、SPC（特別目的会社）に業務を委託した。</p> <p>○設計・建築業務については、引き続き準備工事を実施するとともに、基本設計を完了し、実施設計に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新館等の基本設計完了（平成22年10月） ・職員宿舎・院内保育所の基本設計完了（平成23年1月） <p>○運営・維持管理業務については、平成25年4月からのSPCによる効率的な業務開始に向けて、協議を実施した。</p>	○	○
20	イ	経営改善の取組			
		平成22年度末に累積赤字を解消するという目標を達成するとともに、以下の「経営計画」に示す、新たな数値目標を設定し、更なる経営改善に取り組みます。	<p>平成21年度末に、前倒しで累積赤字を解消した。平成22年度においても、過去最高となる単年度黒字を確保し、累積黒字額を積み増すことができた。</p> <p>(累積損益額)</p> <p>20年度末 △130百万円</p> <p>21年度末 48百万円</p> <p>22年度末 312百万円</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績				22年度 評価案	(参考) 21年度評価			
3	経営計画										
	(2)	新たな中期財政運営目標									
21	ア	入院									
		<p>平均在院日数の短縮と病床利用率の向上を図ることにより、より多くの患者の受入れと診療報酬のアップを目指します。</p> <p>平均在院日数は、21年度と比較して、0.2日の微増となったが、プランの最終年度の目標値14.6日を達成している。 しかし、一般病床利用率、延べ患者数及び実患者数については、21年度の実績を上回ったものの、目標には届かなかった。 診療報酬単価は、10年ぶりの診療報酬のプラス改定の影響を受け、4万8千円台にまで上がったが、目標にはわずかに届かなかった。</p>					×	×			
		<数値目標>									
			目標項目	(参考) 20年度実績	(参考)21年度 実績	達成状況	22年度 数値目標	実績	達成状況	差引 (22実績-22目標)	説明
			平均在院日数	15.6日	14.4日	◎	14.9日	14.6日	◎	△ 0.3日	23年度目標(14.6日)を前倒しで達成
			一般病床利用率	79.7%	81.8%	▲	88%	83.8%	▲	△ 4.2%	延べ患者数が目標に達しなかったため、病床利用率も目標を下回った。
			入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	161,457人	×	173,401人	165,404人	▲	△ 7,997人	
			入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,490人	▲	10,954人	10,572人	▲	△ 382人	実患者数は過去最高となったが、目標には届かなかった。
			診療報酬単価	45,737円	45,742円	▲	48,967円	48,080円	▲	△ 887円	21年度と比較して大幅に改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(3) 経営効率化に関する考え方					
	ア	民間的経営手法の導入			
24	(ア)	PFI手法により整備運営事業を実施します。 (再掲：2-(5)-ア)	<p>○薬品・診療材料等の調達業務については、平成22年4月から、SPC（特別目的会社）に業務を委託した。</p> <p>○設計・建築業務については、引き続き準備工事を実施するとともに、基本設計を完了し、実施設計に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新館等の基本設計完了（平成22年10月） ・職員宿舎・院内保育所の基本設計完了（平成23年1月） <p>○運営・維持管理業務については、平成25年4月からのSPCによる効率的な業務開始に向けて、協議を実施した。</p>	○	○
25	(イ)	平成23年度から非公務員型の地方独立行政法人へ移行することにより、その特徴を生かして、これまでの手法にとらわれない、機敏で柔軟性のある運営を行い、効率的な経営を目指します。	<p>○平成22年4月に地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会（以下、本項において「委員会」という。）を設置</p> <p>○平成22年9月に理事長予定者の内定について公表。また、中期目標の策定や地方独立行政法人京都市立病院機構定款の一部改正、その他地方独立行政法人化関連議案が市会で可決された。</p> <p>○平成23年3月に地方独立行政法人京都市立病院機構に職員を引き継ぐ京都市の内部組織を定める条例が市会で可決された。</p> <p>○委員会において、平成22年度、全6回にわたり会議を開催し、中期目標、中期計画をはじめとする地方独立行政法人法により市長が策定や認可を行う際に意見を徴収すべきとされている事項や、委員会が市長に対し意見を述べることでできるとされている事項のすべてについて審議した。</p> <p>※ 平成23年4月1日 地方独立行政法人京都市立病院機構設立</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
	イ	事業規模・形態の見直し			
26	(ア)	新棟整備等によって、感染症医療や救急医療、災害時医療等の政策医療機能、がんや生活習慣病への高度医療機能、地域医療の支援機能を拡充します。	○次の事項を盛り込んだ、新館新築及び本館改修等の実施設計に着手した。 ・感染症外来の設置や、感染症外来から感染症病床への直通エレベータを設置等 ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポートを設置 ・新館の免震構造化 ・非常用発電機の増設等 ・外来化学療法室の拡充 ・心臓・脳・血管病センター（仮称）を設置	○	○
27	(イ)	新棟整備等に当たり、現在の延べ入院患者数を維持しつつ、病床を効率的に利用するとともに、安定した病院経営を行うため、現行の586床から38床減の548床（一般病床540床、感染症病床8床）とします。これを先行実施するものとして、平成21年3月に1病棟を休止し、当該病棟の看護師を他の部署へ再配置することにより、医療機能の拡充と医療安全の推進を図ります。	平成20年度、平成21年度に実施済み (参考) ・平成21年3月に1病棟を休止し、病床数を548床とした。 ・京都市病院事業条例の一部改正により、平成21年6月1日から、条例上も病床数を548床に変更した。 ・休止病棟の看護師を各病棟・救急外来へ再配置し、夜間の看護体制の充実及び夜勤時の看護師の負担軽減を図り、医療安全に配慮した体制を維持している。	○	○
	ウ	経費削減・抑制対策			
28	(ア)	後発医薬品の導入促進により材料費の節減を図ります。	・後発医薬品採用数・比率 平成20年度 147品目（9.6%） 平成21年度 161品目（11.1%） 平成22年度 172品目（12.2%） ・後発医薬品購入金額・比率 平成20年度 75百万円（6.1%） 平成21年度 101百万円（8.5%） 平成22年度 126百万円（9.9%） (参考) ・医薬品購入金額 平成20年度 1,231百万円 平成21年度 1,181百万円 平成22年度 1,278百万円 ※高額医薬品の購入金額の増等	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
29	(イ)	医療周辺業務の委託化を段階的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者(ドクタークラーク)の配置 平成21年 3月 6名 平成21年10月 8名 平成22年 4月 13名 平成23年 4月 24名 ・薬品・診療材料等の調達業務については、平成22年4月から、SPC(特別目的会社)に業務を委託した。 ・運営・維持管理業務については、平成25年4月からのSPCによる効率的な業務開始に向けて、協議を実施した。 	○	○
	(ウ)	平成20年度に引き続き、平成21年度も高金利企業債の繰上償還により、利子負担の軽減を図ります。	<p>平成20年度及び平成21年度の繰上償還により、取組は実施済み</p> <p>(参考)</p> <p><平成20年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・借換額 17百万円 利率7.15%, 8.5%→0.954% 利子負担軽減額累計 1百万円 ・借換額 1,996百万円 利率6.9, 6.6%→1.579% 利子負担軽減額累計 761百万円 <p><平成21年度></p> <ul style="list-style-type: none"> 借換額 2,797百万円 利率5.5%→0.855% 利子負担軽減額累計 935百万円 	○	○
30	エ 収入増加・確保対策				
	(ア)	専攻医の増員により収益の確保を図ります。	<p>専攻医数の推移</p> <p>平成20年度 40名→平成21年度 45名(過去最高)→平成22年度 38名</p> <p>※ 常勤医師数を維持することにより、病院全体としての診療体制に支障を来さなかった。</p>	△	○
31					

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
32	(イ)	平均在院日数を、新棟での診療を開始する平成25年度に14日にまで短縮することを目指すことにより、入院単価の確保を図ります。	平均在院日数は、21年度と比較して、0.2日の微増となったが、プランの最終年度の目標値14.6日を達成している。 入院単価は、10年ぶりの診療報酬のプラス改定の影響を受け、4万8千円台にまで上がったが、目標の達成には至らなかった。 21年度14.4日→22年度14.6日（目標14.9日） 21年度45,742円→22年度48,080円（目標48,967円）	×	×
33	(ウ)	新棟整備時と同数の一般病床数540床に対する病床利用率88%を目指します。	実患者数は、平成21年度に引き続き過去最高を更新したが、目標には届かなかった。 平均在院日数は、プランの最終年度の目標値14.6日をすでに達成している。 実患者数が過去最高とはいえ0.8%の微増にとどまったことなどにより、延べ患者数も21年度と比較して2.4%の増加にとどまった。その結果、病床利用率は上昇はしたものの、目標には届かなかった。 21年度81.8%→22年度83.8%（目標88.0%）	×	×
34	(エ)	地域医療支援病院の平成21年度中の承認を目指すことにより、収益の確保を図ります。	地域医療支援病院の承認による増収（22年度） +135,482千円（㊦+59,332千円） （参考） 地域医療支援病院の承認 ・平成21年9月1日	○	○
35	(オ)	I C U（集中治療室）を平成21年度から基準稼働することにより、収益の確保を図ります。	I C U稼働による増収（22年度） +126,024千円（特定集中治療室管理料算定実績） （㊦+78,260千円） （参考） I C Uの基準稼働 平成21年6月1日から4床稼働	○	○
36	(カ)	D P C（診断群分類別包括評価）による診療報酬請求を平成21年度から導入することにより、収益の確保を図ります。	D P C導入による増収（22年度） +409,711千円（㊦+180,524千円） （参考） D P C（診断群分類別包括評価）による診療報酬請求の導入 平成21年7月1日から	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																				
37	(キ)	未収金対策を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードによる支払制度を導入(22年6月) ・「京都市立病院外来分個人負担金債権管理要綱」を策定 ※「京都市立病院入院分個人負担金債権管理要綱」は、21年度に策定済み <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">入 院</td> </tr> <tr> <td>収 納 率</td> <td>98.9%</td> <td>98.2%</td> <td>△ 0.7ポイント</td> </tr> <tr> <td>新規発生未収金</td> <td>7,913千円</td> <td>13,420千円</td> <td>5,507千円</td> </tr> <tr> <td>未収金残高</td> <td>152,451千円</td> <td>161,740千円</td> <td>9,289千円</td> </tr> <tr> <td colspan="4">外 来</td> </tr> <tr> <td>収 納 率</td> <td>99.4%</td> <td>99.6%</td> <td>+0.2ポイント</td> </tr> <tr> <td>新規発生未収金</td> <td>3,175千円</td> <td>2,267千円</td> <td>△ 908千円</td> </tr> <tr> <td>未収金残高</td> <td>15,908千円</td> <td>17,368千円</td> <td>+1,460千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※入院の区分における平成22年度の新規発生未収金額(13,420千円)は、平成15年度以降、平成21年度に続き2番目に低い水準ではあった。</p>	区 分	21年度	22年度	増 減	入 院				収 納 率	98.9%	98.2%	△ 0.7ポイント	新規発生未収金	7,913千円	13,420千円	5,507千円	未収金残高	152,451千円	161,740千円	9,289千円	外 来				収 納 率	99.4%	99.6%	+0.2ポイント	新規発生未収金	3,175千円	2,267千円	△ 908千円	未収金残高	15,908千円	17,368千円	+1,460千円	△	○
	区 分	21年度	22年度	増 減																																					
入 院																																									
収 納 率	98.9%	98.2%	△ 0.7ポイント																																						
新規発生未収金	7,913千円	13,420千円	5,507千円																																						
未収金残高	152,451千円	161,740千円	9,289千円																																						
外 来																																									
収 納 率	99.4%	99.6%	+0.2ポイント																																						
新規発生未収金	3,175千円	2,267千円	△ 908千円																																						
未収金残高	15,908千円	17,368千円	+1,460千円																																						
38	オ その他																																								
	(ア)	診療科別収支計算などの管理会計の充実に継続的に実施します。	診療科別収支計算などを導入するに当たって、SPC(特別目的会社)等の支援を受け、検討を進めた。	△	△																																				
(4) 定員管理及び給与の適正化に関する考え方																																									
39	ア 定員管理の取組																																								
		<p>現行の経営形態においては、「京都未来まちづくりプラン」に基づく京都市全体の取組の趣旨を踏まえ、病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組みます。</p> <p>医療周辺業務については委託化を推進するとともに、必要な職員を配置することにより、人員が増大することを抑制しつつ、業務の遂行に対応した。</p> <p>実配置 平成20年度末665名 平成21年度末681名 平成22年度末679名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師・歯科医師</td> <td>78</td> <td>79</td> <td>+1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>459</td> <td>456</td> <td>△ 3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>94</td> <td>94</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務・技術</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>681</td> <td>679</td> <td>△ 2</td> </tr> </tbody> </table>	職種区分	21年度	22年度	増 減	医師・歯科医師	78	79	+1	看護師	459	456	△ 3	コメディカル	94	94	-	事務・技術	45	45	-	その他	5	5	-	合 計	681	679	△ 2	○	○									
職種区分	21年度	22年度	増 減																																						
医師・歯科医師	78	79	+1																																						
看護師	459	456	△ 3																																						
コメディカル	94	94	-																																						
事務・技術	45	45	-																																						
その他	5	5	-																																						
合 計	681	679	△ 2																																						

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
	イ	給与の適正化の取組			
40		<p>病院機能の中核を担う医師については、全国的に医師が不足する状況のもとにあって、その確保が極めて重要であるため、初任給調整手当の増額など、引き続き給与水準の改善に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域手当の引上げ 平成19年度 12%、平成20年度 13% 平成21年度 14%、平成22年度 15% ・常勤医師の平均年収（△147千円/年） 平成21年度15,063千円 → 平成22年度14,916千円 ※ 時間外勤務手当の縮減等 <p>(参考) 初任給調整手当の引上げ 平成20年度 月額 37,500円～159,000円 → 平成21年度 月額 37,500円～249,000円</p>	○	○
41		<p>職員給与費対医業収益比率が他の公立の500床以上の黒字病院と比較して高い状況を踏まえ、医業収益の増加、時間外勤務手当の縮減等に取り組むことにより、この比率の引下げを目指します。</p>	<p>医業収益の増加及び時間外勤務手当の縮減により、職員給与費対医業収益比率は平成21年度より改善した。</p> <p>〔時間外勤手当 ㊳318,996千円 ㊴330,682千円〕 ㊵305,142千円〕</p> <p>しかし、医業収益が22年度の目標には届かなかったこと及び職員給与費における国基準による共済追加費用の増加（21年度290,874千円→22年度311,885千円）や退職手当の増加（21年度421,560千円→22年度587,586千円）により、プランの目標達成には至らなかった。</p> <p>21年度64.4%→22年度61.6%（目標57.5%）</p>	×	×

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
42	(5) 一般会計における経費負担の考え方	<p>高度医療や感染症医療、二次救急医療等の政策医療については、効率的な運営に努めてもなお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補填するために所要の措置を講じていきます。</p> <p>具体的な積算については、総務省繰出基準による繰出しは従前どおり確実にを行うとともに、極めて厳しい本市の財政状況を踏まえ、平成21年度から当該基準外の繰出しは原則として廃止します。</p>	<p>プランにおいて定めたとおり総務省繰出基準による繰出しを確実に行った。</p> <p>21年度 2,249百万円→22年度 2,149百万円</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に総務省繰出基準外の繰出金は廃止 ただし、平成21年度は、新型インフルエンザの発生により、風評によると考えられる一般患者数の減少に伴い想定外の収益の減少が生じたため、その減収補てんとして76,000千円の資金を繰り出した。 	○	△